

|                           |                    |  |
|---------------------------|--------------------|--|
| えんぼとたんぼの始発駅<br>里山ビオトープ二俣瀬 | <b>会 報 第 182 号</b> | 2016年9月23日<br>里山ビオトープ二俣瀬をつくる会<br>編集責任者：原谷 一誠 |
|---------------------------|--------------------|--|

### 1. 活動報告（事務局 記）

—9月4日（日）会員14名の参加があり、活動内容は、遊歩道・水路周辺および法面の草刈り、水路暗渠入口（東屋横）のオーバーフロー防止策として、暗渠入口に柵を設け、ここからパイプを引き、溢れた水を須賀河内川に放流できるようにしました。

なお暗渠に使用したパイプ（塩ビパイプ肉厚 150φ×3,5m2本）は、吉富会員より提供して頂きましたので、会より謝礼をします。

また夕方、原田事務局が排水オーバーフロー部のモルタル仕舞、および台風対策として電気柵電源部の風対策をしました。

—9月10日（土）親子自然観察隊は、秋の昆虫観察でした。市内の中学校は運動会もありましたが、多くの子供たちが参加してくれ、秋の晴天の中で二つの班に分けて、ビオトープ周辺の班と昭和山入口までに班に分かれて、楽しく昆虫観察が出来ました。トンボやチョウよりもバッタやキリギリスなどがたくさん観察されました。採取した昆虫は同定して逃がしてやりました。参加者は、親6名、子11名、会員8名でした。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—10月2日（日）臨時活動日（維持管理・草刈り、稲刈りの準備）

—10月8日（土）稲作体験・稲刈り（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会招聘）

—10月16日（日）維持活動、草刈り

### 3. 来訪者の声

—8月26日— 久々にビオトープを訪れました。楽しませてもらいました下部の池が少し荒れていますネ、管理頑張って下さい。 元会員 寺森

### 4. 会員の声-「市道側溝の破損」（原田満洲夫 記）

ビオトープ散策には通常ビオトープ駐車場に車を止め市道を約300mを歩いて入ることが望ましい。会員が活動日に作業用工具や材料を運搬するには軽トラックで入場している。最近ビオトープ散策ではなくポケモンゲームで、普通車に乗って入場してきたり、先日は昭和山山頂のNTTドコモの通信設備のメンテナンスに3トンのユニック車が2台も入ってきた。

9月18日は若い人が水車横の市道側溝に普通車がはまり込み、どうにもこうにもならなくなっていた。稲作の水管理に来た帰りで通行を防ぎどうしても手伝いをせざるを得な

くなくなった。我が車が通らない為、歩いて家に帰り道具・玉掛けワイヤーを持込雨の中1時間以上かかって無事解決できたが、先日(15日)の3トン車の折にも側溝を破壊しせつかく修復したのに18日もあとから溝あげ作業をやむなく行なった。

15日に市民センタ長に3トン車の事をお話したばかりであったが3日もたらず又もや同じ事故がくりかえされ、当事者はたまったものでない。軽4輪よりも大きな車の通行を止めるわけも行かないが、何とか解決の方法はないだろうか？

イ) 市道の側溝ということで宇部市道路管理課で溝蓋つきU字溝を設置

ロ) 中型車・大型車(ワゴン車やトラックなど)の通行禁止

ハ) 管理者へ大きな車の工事車は通行の報告を義務付け誰が側溝を壊したか判明するようになる。

他に良い案はないだろうか？

## 5. 親子自然観察隊 「秋の昆虫採集」 ( 管 哲郎 記 )

残暑の残る晴天でしたが、思ったより気温も低く、暑いながらも気持ちよく昆虫を追いかけることができましたようです。宇部市の中学校では運動会と重なって、親会員の欠席者が少しありましたので、隊員を2班に分け、それぞれの班にはリーダーに付いていただき、1班はため池周りを、もう1班は昭和山登り口までの範囲を採集し、時間内に昆虫採集を楽しんでいただきました。今年はトンボやチョウの昆虫が少なく、主にバッタ、カマキリといった昆虫が多かったようで、採集カゴの中には“ムシ”が少なく少し寂しい気がいたしましたが、十分に網をふるったようでした。11:00~11:30まで採集した昆虫の同定を行い、11:30より片付けに入り12:00には解散できました。しかし、隊員の中には解散後も熱心に昆虫をどんどん採集し、居残ってムシの同定をしなければならず、嬉しい悲鳴となりました。

採集された昆虫は以下の通りでした。

**トンボ類** ベニイトトンボ、アオモンイトトンボ、ハグロトンボ、アジアイトトンボ、シオカラトンボ、チョウトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、マユタテアカネ、リスアカネ、

**チョウ類** ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、キタキチョウ、イチモンジセセリ、ヒカゲチョウ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、メスグロヒョウモン、モンシロチョウ、

**バッタ・キリギリス類(直翅目)** トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、ツチイナゴ、ハネナガイナゴ、エンマコオロギ、イチモンジコオロギ、サトクダマキモドキ、オナガササキリ、オオカマキリ、コカマキリ、

**アブ・ハチ類** オオスズメバチ、クマバチ、ルリコシアカハバチ、

**甲虫類** ヒラタクワガタ♀、センチコガネ、ウリハムシ、

**セミ・カメムシ類** クモヘリカメムシ、モンキアワフキ、アオバハゴロモ、

**その他** ナガコガネグモ、



網とカゴを使つての捕まえ方の説明



ビオトープ周辺の観察



昭和山入口への途中の休耕田



捕まえた昆虫の同定

### 親子自然観察隊の感想

#### ★下川航平

バッタをいっぱいつかまえました。工藤さんがオオスズメバチをつかまえて、とても大きくて、虫かごに入れたらブンブンブンうるさかったです。糸トンボの交尾がたくさん見られました。

#### ★金子実侑

色々な昆虫が見られてよかったです。

私は、飛ぶのが速いとんぼをたくさん捕まえられたので嬉しかったです。

#### ★金子 揮壺

久しぶりにビオトープに行き、生き物をたくさん見ることができたのでよかったです。また時間があれば参加したいです。

#### ★川口颯太

たくさんの虫をつかまえてよかったです。

#### ★川口 (母)

観察隊では大変お世話になりました。うちの子は虫が苦手なのでどうなることやら…と思っていたのですが、なんとかつかまえていました。

#### ★永富花音

トンボはすばしっこく飛び回るので、特に捕まえるのが楽しかったです。すずめ蜂を捕まえていた人がいたのでびっくりしました。

★永富利津子（母）

すでに駐車場から昆虫採取が始まっていました。帰りもなかなか駐車場にたどり着けませんでした（笑）。夢中になっている娘を微笑ましく思いました。

★木村（母）

久しぶりの昆虫採集は、私にとっても、大変なつかしく心地良い時間でした。どこにでもいるバッタやコウロギ以外にも、たくさんの虫たちに遭遇できて、ビックリしました。捕まえた虫は傷つけないように大事に自然に返す・・・と言う姿勢も子どもたちにとっても勉強になったと思います。普段、あまり虫に興味を持っていない息子が、「僕はあまり、採ってない！」と言って、昆虫採集に意欲を持ち始めた姿を見て、嬉しく思いました。家に帰ってから、自宅の上をたくさんのトンボが飛んでいるのに気づき、子どもたちと網を振り回しました。これからも子どもたちにたくさんの自然と触れ合っていくことを楽しみたいと思います。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(9) オオウラギンヒョウモン *Fabriciana nerippe* (絶滅危惧 IA 類)

鱗翅目 タテハチョウ科

全国的に草原の減少により著しく数が減り、絶滅危惧種に指定された貴重なタテハチョウです。6月中旬～10月上旬に見ることができます。本州、四国、九州の草原地帯に見られましたが、現在では四国で全滅し、本州では山口県の秋吉台の草原に唯一生息しているだけとなりました。九州では熊本県の阿蘇平原、大分県の九重平原、福岡県の平尾台などで確認されているようですが、日本では最も減少したチョウの一つです。

スマレが食草ですが、草刈が行われなくなった草原ではスマレがその他の雑草に負けて育たずチョウの食草がなくなってしまいます。秋吉台では毎年の野焼き、阿蘇や久住高原では野焼きや放牧、その他では自衛隊の演習場などにより草が刈られたりして、かろうじて生き残っているようです。

本州唯一のチョウということもあり、大切に見守ってゆかねばなりません。保護、保全するのは大変な努力を必要とします。何とか生き残ってほしいものです。



夏の秋吉台



スマレの葉を食べるオオウラギンヒョウモンの幼虫



オオウラギンヒョウモン ♂



オオウラギンヒョウモン ♀

## 7. 会よりの連絡事項

1. 9月18日雨が降るものの田圃の最終水落とし(稲刈りに向かって乾燥)開始しました。10月2日はさらに田んぼのよけじ溝を浚え乾燥を早める作業を行います。
2. 稲作体験「稲刈り」の終了後“刈未て”をおこないます。
3. 水車の修理に関しては、宇部市の担当者に依頼していますが、今年度は難しく、来年度に予算計上などを図ってみると言われています。また何か連絡があればお知らせします。

## 8. 編集後記

最近、虫嫌いの人が多いと聞きます。そういう私もそんなに得意な方ではありませんが、それでも触れる虫が若干あります。アリ、ダンゴムシ、バッタ、カブトムシ、トンボくらいなら何とか…。しかし、今はそんなレベルではなく、虫全般が苦手という人が多いようです。家の中で虫を発見しようものなら大騒ぎで殺虫剤をまくとか、普通みたいです。親が虫嫌いだったら、子どもが昆虫に関心を持つのは環境的に難しそうですね。

しかしながら、観察隊に参加するお子さんは、みんな夢中で昆虫採集をしていて、その表情はとても輝いています。一緒に過ごす親御さんも、お子さんに負けない熱心さで昆虫の種別を調べたりしておられて、「この親にしてこの子あり」と感じています。

今回の観察隊に参加されているご家族は、乳児や幼児も一緒に参加されていて、とても微笑ましいです。お子さんが物心つく頃から家族ぐるみで自然と触れ合うことは、「豊かな心をはぐくむ」うえで貴重な体験になると考えています。

私自身も、「つくる会」に参加させていただいて、自然と共生しながら生きていく喜びを感じています。2001年から、かれこれ17年も関わってこられたのは、ひとえに「つくる会」の組織力と雰囲気の良いさです。月に1～2回の活動ですが、「つくる会」の仲間の頑張りや観察隊の子どもたちの笑顔に励まされ、元気をいただいています。

今後も、この活動を通して、自然を愛する仲間づくりにかかわっていただけたらと思っています。

( 中本 亜矢子 記 )